

令和5年度 墨田区立両国小学校 経営報告書

学 校 目 標	進んで学ぶ子ども たくましい子ども 心の温かい子ども
目 指 す 学 校 像	○子供たちが誇れる学校 ○保護者に信頼される学校 ○地域とともにある学校 ○教職員が生き生きとした学校
目 指 す 子 供 像	知徳体のバランスのとれた、進んで学び、心身共にたくましく、心の温かい子供
目 指 す 教 師 像	広い視野と高い指導力をもち、常に子供と向き合える教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	<p>確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想 ・校内研究 ・基礎基本の定着と活用 	4	4	<p>○区学習状況調査において、全ての学年、領域で全国平均をほぼ上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想4年目、タブレット端末を「学びのパートナー」として主体的に活用して授業力向上を図るとともに、教材等の共有財産化を進め、更に組織的に授業改善に取り組む。 ・「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成～言葉や叙述を大切に読む活動を通して」を研究テーマとして、国語科を中心に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進める。(区特色ある学校づくり推進校) ・「区ふり返しシート」や「ミライシード」等を活用し、基礎基本の定着と活用できる力の育成を図る。 	A	A
	<p>特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まなびの教室拠点校 ・毎月の特別支援委員会 ・学習支援指導員の配置 	3	3	<p>○年度末の保護者面談で振り返りと次年度の展望を話し合い、課題設定に生かすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まなびの教室「両国」拠点校として、特別支援教育のより一層の充実のために、組織的に取り組む。 ・週毎に学習状況を共有し、通常の学級での指導に生かす。保護者面談や保護者学習会の充実を図る。 ・月1回の特別支援委員会を計画的に実施し、特別支援コーディネーター複数名体制や巡回心理士との連携で更なる充実を図る。 ・児童の実態に応じて学習支援指導員を配置し、個に応じた指導を行う。 	A	B
	<p>社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート ・なかよし班活動 ・地域人材を生かした授業 	3	3	<p>○児童の自己評価カード等により、達成度を担任が評価し、概ね達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初からの計画的なキャリアパスポートの活用と学びに向かう態度の自己評価の日常化により児童にPDCAを身に付けさせる。 ・「なかよし班」を中心とした交流活動は、感染状況を踏まえて内容の充実を図り、自分の立場に合った行動をとれるようにする。 ・地域人材を生かした授業を推進し、地域から学び、地域の一員としての自覚をもった児童を育成する。 	A	A

様式 4

	<p>教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観 ・本校の各種OJT ・区や都の研修制度 	4	3	<p>○「OJTレポート」と管理職との面接で、身に付いた力と課題を共有し、向上心を概ね高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観を活発化する ・メンター制による「若手OJT」「サポートOJT」、教職員誰もが参加できる「ショートOJT」を実施し、各自が保有する専門的な研修や実践の成果を共有し、授業力に生かす。 ・区や都の研修制度を活用し、自己の教科指導の専門性を高めさせる。 	A	A
	体力向上	4	3	<p>○体力テスト学年男女別で都の平均を半数を超えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等の予防に配慮しながら、年間計画に基づき「持久走月間・長なわチャレンジ」等体力向上の取組を実践する。 	A	A
	<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導面では十分に成果が出ていると思われる。 ・いつもいろいろな活動をしてきていることがありがたい。 ・授業の様子を見て思ったことは、皆文字がとてもきれいなことでびっくりした。 ・高学年になるにつれて返事や発言に頼もしさを感じた。 ・校内を見て、低学年からタブレット端末を使用していて、これからもどんどん慣れていってほしい。学習調査からも頑張っているのがよく分かった。 ・タブレット端末を使った発表など、こんなことが出来るのかと公開授業で驚いている。大人になっても役立つことだと思うので伸ばして欲しいのと同時に、書くことにもしっかり力を入れていていただきたい。 ・両小が新しい教育に力を入れていくことに協力していきたいと思っている。数学を教えてくれるロボット先生というものがあり、実際に導入している都内の小学校がまだない状況。区議会にも働きかけている。 ・協議会で校内見学にこれだけ時間をかけてもらったのは初めてだった。すごくよかった。 ・5・6年生は女子に比べて男子は弱々しく見える。体力向上を図るべきである。 ・教員相互の授業参観を保護者にも公開されたら面白いのではないかなと思う。先生方の有する専門的な知識を知れたら嬉しいと思う。 ・1単位時間が45分から40分に変更され、年間85時間の時間が生まれることが報道されていた。どのような考えで活用されていくのか、見守ってきたい。 ・地域と学校が一体となった取組を今後も推進していく中で、子供の育成をさらに進めていただきたい。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	<p>いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校、長欠予防の部会 ・いじめ防止授業 	3	3	<p>○いじめ未対応件数ゼロ。 不登校未対応件数ゼロ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導主任を中心に、いじめ防止、不登校及び長欠予防に向けた部会を定期的に行い確認する。 ・いじめ防止授業を年3回実施する。SNSルールをはじめ基本方針の内容を指導徹底し「いじめをしない・させない・許さない」心情や態度をはぐくむ。タブレット端末の利用について、家庭と連携しルールを守る指導を徹底し、適切に端末を使用する態度を育成する。 	B	A
	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育 ・学級挨拶運動 ・なかよし班活動 	3	3	<p>○保護者評価で「毎日明るく楽しく学校生活を送れている」肯定的回答92.1%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科・道徳」により、道徳的価値を自分事として理解し、道徳教育の充実を図る。 ・一週間の「学級挨拶運動」をはじめ、手法を工夫しながら、基本的な生活習慣の徹底を図る。 ・異学年交流を深めるためのなかよし班活動を行い、「なかよしタイム」「百人一首集会」等の場を活用し、児童相互の豊かな関わり合いを深め、思いやりの心を育てる。 	A	A

様式 4

<p>危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導、安全点検 ・研修会 	3	4	<p>○施設面の不具合を理由とする学校事故ゼロ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導と安全点検を徹底するとともに、毎日の看護当番や引率時の安全確保を徹底する。 ・毎月の安全点検、研修会実施（特に食物アレルギー対応）により危機管理意識の高揚を図る。 ・施設面での安全確保を進めるとともに、外部機関との定期的な情報交換を実施し、事故の未然防止に努める。 	A	A
<p>衛生管理の徹底</p>	3	3	<p>○保護者評価「防止対策が適切」肯定的回答 92.1%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童には「自分の健康は自分で守る」ことを心掛けさせ、「新しい生活様式」を踏まえた衛生習慣の徹底を図る。 	A	A
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の元気が良かった。 ・高学年になるにしたがって女子の方がしっかりしている。 ・昔より左利きの子が少ないように感じた。 ・コロナで控えていた大きな声での挨拶も以前のような挨拶に戻ってきた。 ・欠席したときの電話対応はありがたい。 ・防止対策がよいと思う。 ・異学年の交流が良く出来ていると思う。家庭の話題でも、「他学年の発表が上手だった。自分もそうになりたい。」などと話すことがある。プラスバンドの活動にも良く表れていると思う。 ・道徳教育に力を入れることに賛成である。子も親も一緒に取り組むのがよいと思う。 ・学校の雰囲気や身近で聞く機会があり、いじめについてはクラス皆が仲良くしていると言っており、本校ではいじめの発生が少ないのではと思った。 ・生活指導は完璧という状況はなく、今後も難しい問題も多く発生すると思う。大変かと思うが頑張ってもらいたい。 ・公開講座でもあったが、携帯を高学年になると持っている率が高くなり、家庭でも指導は必要だが、学校でもマナーやSNSのルール等、話を聞く機会を続けていただきたい。 ・町会の交通当番の時など挨拶をしない子がおり、課題であると感じる。 ・大人になっても挨拶できない人がたくさんいる。幼少期からこの基本的なことを身に付けることは非常に大事なことだと思う。 ・公園での遊び方が気になる。幼稚園児などに対する態度があまり良くない。注意されても改善なし。学校側の見回りを求めたい。 ・最近ウズラの卵の誤飲の報道があった。対策はされていると思うが安全指導をお願いしたい。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織文化 ・会議等の効率化 ・サービスの厳正 ・職場環境の整備 	4	4	<p>○教職員の自己評価、関係者評価等により、肯定的回答 100%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の取組、校内研究等の取組を通して得られた成果を伝え続け、良質の「組織文化」を維持する ・経営方針を共有化し、会議等の効率化を図る。 ・体罰の根絶をはじめ、サービス等の規律を正し、適正な管理運営を図る。 ・より質の高い教育活動が行えるよう、在校時間の適切な把握と教職員の意識改革を推進し、職場環境を整える。 	A	A
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年算数少数人数指導 ・ESD推進 ・全学年学級編成替え 	3	3	<p>○保護者評価で「児童に対する評価の状況よい」肯定的回答 88.9%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童の実態把握に努め、特に補充学習や特別な教育支援が必要な児童に丁寧な指導を行う。 ・全学年算数少数人数指導を継続し、評価基準を明確にして適切に評価する。 ・持続可能な社会の創り手の育成を目指した教育（ESD）を推進し、授業を通して児童のSDGsの目標へ意識を高める。 ・全学年の学級編成替えを行い、多くの児童との交流を図る。 	A	A

様式 4

	<p>適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ・環境整備</p>	3	4	<p>○保護者評価で「教育環境、安全環境状況よい」肯定的回答 97.7%。 ・教材・指導案等を全教員が共有し活用する環境整備に努める。 ・老朽化に伴う施設改善は、区と連携しながら工事等を計画する。 ・外壁・校章・掲示板・空調・照明等の改善を図るとともに、I C T環境・読書環境の更なる充実を図る。</p>	A	A
	<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題はないかと思う。 ・教育環境、設備、ともに恵まれていると感じている。 ・教職員の自己評価、関係者評価により肯定的回答100%は素晴らしいと思う。 ・校舎の老朽化が心配である。 ・宿題について、出しているクラスとそうでないクラスとばらつきがあるように思う。内容やレベルを統一してほしい。日記を継続して行ってほしい。 ・全学年学級編成替えの良い点、悪い点の評価はいつ頃判明するのか。 ・全学年の学級編成替えが果たして良いのだろうか。特に、1、2年生の低学年はクラス替えをしないほうが良いと思う。 ・毎年クラス替えでどうなるのか、まだ心配な面がある。やっとまとまってきたクラスを1年で替えるのは子供にとって負担ではないか。5、6年生は不要なのでは。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。	4	4	○保護者評価で「学校からの情報提供状況よい」肯定的回答 97.5%。 ・学校便り・ホームページの更なる充実と、学校情報連絡システム(COCOO)により、保護者と学校の情報共有を推進する。	A	A
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。	4	4	○保護者評価で、「保護者や地域と積極的に連携」肯定的回答 98.4%。 ・子供会やPTAとの協働により、アフターコロナにおける地域行事を工夫しながら行う。 ・PTAと教員が相互に感謝し合える関係を継続維持する。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「COCOO」の出欠連絡が24時間出来るので、大変助かっている。 ・行事が活発になり、親子で楽しめる時間が増えたと感じている。 ・いつもPTAと連携していただきありがたい。 ・地域と学校の関係が深いこのエリアで、連携がとても取れていると思う。 ・今後とも地域と連携した取組へのチャレンジをお願いしたい。 ・今後も地域との連携を密接に行って、子供たちの健全育成を図っていただきたい。 ・地元の子供会の活動は良く出来ていると思う。 ・コロナ前を知っている保護者が減ってきているので、PTA行事への協力が難しくなっている部分もあるが、やれる範囲で思いっきりやっていきたいと思う。 ・通学路にガードレールを設置したいと考えている。子供の安全を守る活動の第一弾として設置を進めていきたい。 ・もう少し学校からの情報提供が多い方が良いと思う。なかなか外部の者が学校の内容を見聞きする機会がない。学校公開の頻度をもう1、2回増やしたらどうか。 ・小学校と中学校のPTA行事は、今後は早めに調整できるものはした方が良いと思う。 				

様式 4

2 令和5年度学校評価のまとめ

- ・今年度の学校評価は、保護者アンケートでは「校内の環境整備」「PTAや地域との連携」「教職員の対応」において高評価を、学校関係者評価では「分かりやすい授業の実施」をはじめ12の項目において自己評価・改善策とも学校の示したものに適切である、との高評価をいただいた。
- ・今年度も「質問紙回答アプリ」を活用して保護者アンケートを実施し、回答率は昨年度比5.3ポイント増加し、89%であった。多くの家庭から回答いただけるよう、引き続き周知していく。
- ・保護者アンケートにおいて評価の低かった項目では、「分からない」と回答したのが一定程度見られた。学校の良い取組を全家庭に適切に情報発信し、保護者や地域との連携を確実なものにしていく。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の位置付けが変わり、教育活動における制限がなくなり、授業公開を従前に近い形に戻したことや児童間交流、外部連携の授業を積極的に行っていることに、感謝と労いの言葉をいただいた。一方で「全学年学級編成替え」をはじめとする新たな経営施策に対しては、丁寧な説明が求められていることも感じた。これからも社会に開かれた教育課程の編成・実施に努めるとともに、状況に応じた教育活動の工夫をたゆまず進め、子供たちが「両国小学校に通える喜び」を日々実感できるよう、本校への期待に応えていきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立両国小学校 校長 渡邊 圭三